

令和元年度 北陸信越工学教育協会事業企画委員会報告

1. 令和元年度第1回事業企画委員会

【開催日時・場所・出席者】

日時：令和元年7月25日（木） 16：30～20：30

場所：富山駅前 CIC ビル 15階

出席者：富山県	富山大学工学部	小熊規泰
福井県	福井大学工学部	藤垣元治
長野県	信州大学工学部	山本博章
新潟県	新潟大学工学部	小椋一夫（代理）
石川県	金沢大学理工学域	秋田純一
	金沢工業大学工学部	山本知仁

【議事】

- (1) 委員長および副委員長の選出について
- (2) 令和元年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて
- (3) 令和2年度以降のシンポジウムテーマについて
- (4) 北陸信越工学教育協会会報68号の発行について
- (5) 北陸信越工学教育協会ホームページの活用について
- (6) その他

【配付資料】

- 資料1 令和元年度北陸信越工学教育協会役員名簿
 資料2 北陸信越工学教育協会役員並びに総会・理事会担当支部等一覧
 資料3 北陸信越工学教育協会事業企画委員会規程
 資料4 北陸信越工学教育協会規程
 資料5 令和元年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム プログラム（案）
 資料6 平成27年度～令和元年度シンポジウムテーマ
 資料7 北陸信越工学教育協会会報第68号発行関係資料
 資料8 北陸信越工学教育協会ホームページ関係資料
 参考資料 平成30年度北陸信越工学教育協会事業企画委員会報告

【議事概要】

- (1) 事業企画委員会の委員長及び副委員長の選出について

前年度の事業企画委員会の決定事項である資料3により、委員長及び副委員長の選出は輪番制により行うとされている。したがって、資料1に示された名簿に基づき、令和元年度の委員長は富山県支部で富山大学工学部の小熊規泰委員に、副委員長は福井県支部で福井大学工学部の藤垣元治委員に決定した。

- (2) 令和元年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

資料5に基づき、委員長より、令和元年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて、開催日及び会場が決定している旨の説明があった。令和元年11月15日（金）に富山大学工学部にて開催する。シンポジウムテーマは「産学連携による高度人材育成教育の取り組み」としたい旨の説明があり、テーマに関連する講演者を検討中であることが報告された。講演プログラムは昨年度と多少変更し、基調講演、事例講演1, 2, 3, 及び企業からの招待講演で構成し、司会は事業企画委員長が務め、開会の挨拶は富山大学理事副学長 磯部祐子教授、閉会の挨拶は富山大学工学部長 會澤宣一教授が務める。基調講演は企業の方に内諾を得ているが、タイトルは未定である。（その後、企業の招待講演は適任が選定できずプログラムから割愛した。）また、委員長より、事例講演の3件のうち1件は富山大学が担当するので、他の2件の担当県を決めたいとの提案があった。種々議論の後、福井県（福井大学）と石川県（金沢工業大学）で選出することになった。

今後、候補者を選定し9月末までにプログラムの草案を練り、10月18日に開催される第151回理事

会にプログラム案を上程する。また、シンポジウムの実施後に、その講演内容は会報第 68 号に掲載することが承認された。

(3) 令和 2 年度以降のシンポジウムテーマについて

資料 6 に基づき、委員長より、これまでのシンポジウムテーマが説明され、次年度以降のテーマ案を当委員会で検討し、シンポジウム開催の担当校の参考にしていただくことで議論がなされた。委員から以下のような話題が提供された。

① AI, BD, DL, DX などを絡めたリカレント教育

近年の社会情勢に応じた人工知能 (AI)、ビッグデータ (BD)、ディープラーニング (DL)、デジタルトランスフォーメーション (DX) などがトピックとして挙げられる。また、これらと絡めたリカレント教育、ICT を活用したエンジニアリング教育なども話題が豊富と考えられる。

② 実務家教員育成

政府が推進する実務家教員育成など、より実践的な学びを学生に提供できる教育の活性化に関するもの。この話題もリカレント教育へ繋がる可能性があるため、Society5.0 と関連する話題を経済産業省 (or 内閣府) にお話いただくのも新たな刺激を得るために検討したい方策である。

(4) 北陸信越工学教育協会会報 68 号の発行について

資料 7 に基づき、令和 2 年 3 月上旬に発行予定の会報第 68 号の掲載項目と原稿募集について審議された。掲載項目については前号と同様の構成とすることを確認した。また、原稿の募集についても資料 7 に記載のスケジュールで行うことを確認した。なお、特集として掲載する年次シンポジウムの報告については、昨年度の作成方法を踏襲することとした。すなわち、テープ起こしを外部企業に委託して行った後、事務局にて文章データの校正を行って最終の原稿とすることとした。

(5) 北陸信越工学教育協会ホームページの活用について

資料 8 に基づき、カテゴリー別アーカイブへの掲載が少ない現状を鑑み、積極的な活用を各委員に要請した。しかしながら、サーバー管理費を考慮するとそれでも十分な活用とは言えない状況である。経費削減も考慮して、紙媒体の会報の発行を取りやめ、次々号から WEB で公開する方針が諮られ、理事会に提案することで一致した。

(6) その他

委員長より、会員の増強案について諮られ、種々議論を行った。教員への PR 不足であり、会員となるメリットを打ち出していく必要があるとの意見があった。

福井県支部より、別途配布された資料に基づき、福井県支部 (福井大学) で学生のグループ活動 (工学に関する新しい取り組み) に対する活動費支援を行っている事例の紹介があった。今年で 3 年目であり、順調な成果を挙げていることが報告された。

2. 令和元年度 北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

【テーマ等】

「産学連携による高度人材育成教育の取組み」

令和元年 11 月 15 日 (金) 13:30~16:30

富山大学工学部総合教育研究棟多目的ホール

【講演プログラム】

司会 小熊規泰 (事業企画委員長 富山大学学術研究部工学系 教授)

13:30~13:40 開会挨拶 富山大学理事・副学長 磯部祐子 氏

13:40~14:30 基調講演「大変革期における期待される人材」

アイシン軽金属株式会社 元副社長 村上 哲 氏

14:30~15:00 事例講演 1 「産官学の協力による福井大学フォーミュラカー製作プロジェクト活動」

福井大学学術研究院工学系部門 新谷真功 氏

15:00~15:20 休憩

15:20~15:50 事例講演 2 「人材育成のための次世代教育システムの構築」

金沢工業大学工学部長 高野則之 氏

15:50~16:20 事例講演 3 「次世代スーパーエンジニア養成コースにおける高度社会

人教育」

富山大学学術研究部工学系 神代 充 氏

16:20～16:30 閉会挨拶 會澤宣一（北陸信越工学教育協会会長 富山大学工学部長）

【参加者】

企業，大学教職員，学部生，大学院生 計67名

3. 北陸信越工学教育協会会報第68号 令和2年3月発行

【目次】

巻頭言 工学教育における産学連携人材育成

北陸信越工学教育協会 会長（富山大学工学部長） 會澤 宣一

特集1 令和元年度「北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム」

～産学連携による高度人材育成教育の取組み～

特集2 北陸信越工学教育協会各県支部研究集会講演

<福井県支部>

食品安全に係るカビ毒汚染と持続可能な食品供給について

福井工業大学環境情報学部環境食品応用化学科 矢部 希見子

アシスティブテクノロジー研究・教育を通してSDGsを考える

福井工業高等専門学校 小越 咲子

「環境教育を通して」ー工学教育とSDGsに関する活動紹介ー

福井大学学術研究院工学系部門材料開発工学講座 徳永 雄次

随筆・随想・事例報告

Global Café グローバルリーダー育成教育活動

信州大学工学部工学基礎部門 藤田 あき美

学生活動支援の試みと活動内容紹介（2019年度）

福井大学大学院工学研究科知能システム工学 藤垣 元治

新潟大学工学部の留学交流G-DORMを主とした国際教育の展開

新潟大学工学部附属工学力教育センター国際教育部門

工学教育の場としての「ゆるい」起業環境

金沢大学理工研究域電子情報通信学系 秋田 純一

事務局記事

各支部情報

名簿

資料

4. 北陸信越工学教育協会 Web ページ

年次シンポジウム，各県支部開催の講演会等の開催の告知

北陸信越工学教育協会会報第68号を掲載

以上